

# すすめよう！男女共同参画

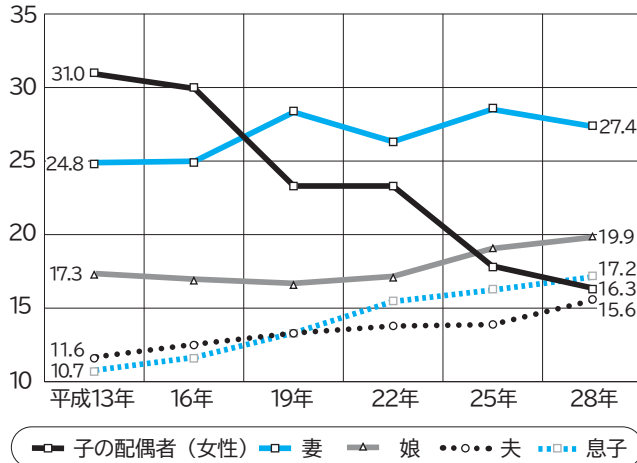
問合せ先 役場企画課企画調整係（内線213）

## ◆同居家族による介護の主な担い手の変化

右のグラフは、同居での主な介護者の推移を示しています（国民生活調査、全国）。平成13年に最も多かったのは、子の配偶者（女性）で31.0%ですが、その割合は調査年ごとに低下し、平成28年には16.3%とほぼ半減しています。また、主な介護者が妻である割合は25～28%程度で横ばい傾向、娘の割合は17～20%程度ですが、近年上昇しつつあります。以上は女性が主な介護者である割合ですが、その合計は73.1%から63.6%へ、10ポイントほど低下しています。

次に男性が主な介護者である割合ですが、夫が11.6%から15.6%へ、息子が10.7%から17.2%へ増加し、両者を合わせると23.3%から32.8%へと10ポイント近く増加しています。以上のことから平成13年～平成28年の同居家族による介護の主な担い手の変化として、子の配偶者（女性）の減少と男性の増加が分かります。

同居家族における主な介護者の推移（割合）



※グラフの子の配偶者（女性）から息子までの合計（平成13年は95.4%、平成28年は96.4%）以外の4～5%は、子の配偶者（男性）、父母、その他の親族の占める割合の合計です。  
※介護者の区分は、グラフの「同居における主たる介護者」以外に「同居以外の介護者（別居の家族等、事業者、その他）」と「介護者不詳」があります。これらの割合は、平成13年はそれぞれ71.1%、19.3%、9.6%、平成28年は58.7%、26.2%、15.2%です。

出典…令和2年版男女共同参画白書